

大学生における情報、同調、認知要因が COVID-19感染予防行動意図に及ぼす影響

Effect of information, conformity and cognitive factors
on COVID-19 infection prevention behavioral intentions of university students

筑波大学システム情報系¹ 千葉銀行² 株式会社インテージ³

○上市秀雄¹ 松川夏武² 石渡崇晶³

¹Faculty of Engineering, Information and Systems, University of Tsukuba, ²The Chiba Bank, Ltd. ³Intage Inc.

Hideo UEICHI¹, Natsumu MATSUKAWA², and Takaaki ISHIWATARI³

E-mail: ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

キーワード：リスク認知, 意思決定, 新型コロナウイルス
Keyword : Risk perception, Decision-making, COVID-19

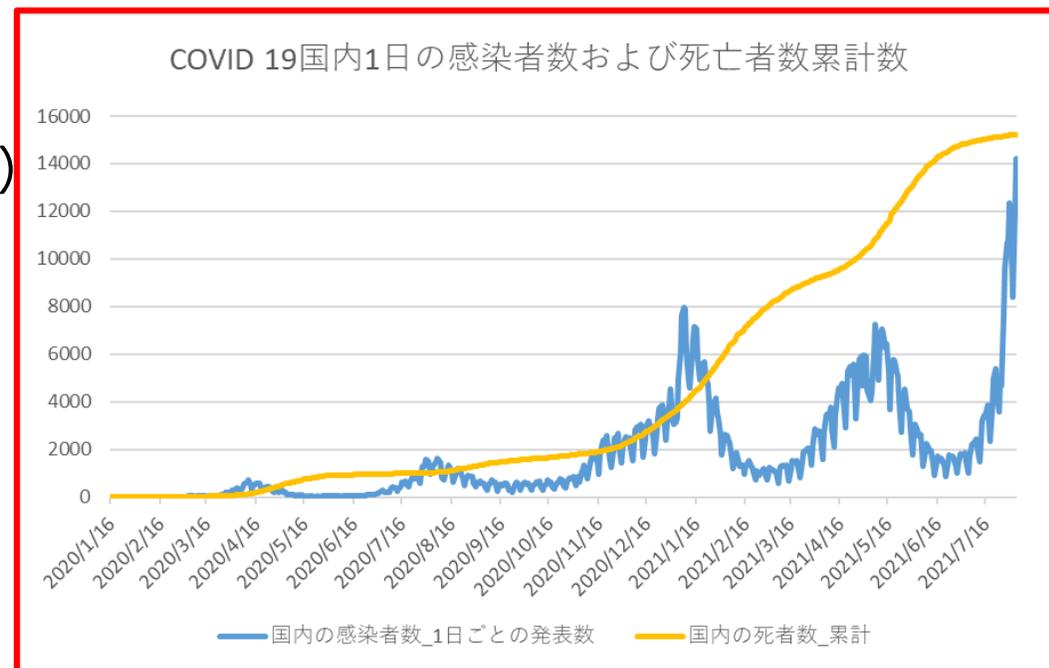
社会的背景

- COVID 19は、2019年11月中国武漢で報告された
 - 高齢者は重症化しやすいが、若年者は軽症、あるいは感染を自覚しない傾向 (Liu et al,2020)

- しかし感染力の強いデルタ株が出現

- 2021年8月11日東京では約95%がデルタ株 (国立感染症研究所, 2021)
- 2021年7月29日、1日の国内感染者数が10,697人初めて10,000人を超える
 - 累計感染者数 903,318人
 - 累積死者数 15,175人

情報提供 : NHK



■ 30歳代と比較した場合のCOVID-19重症化率 (厚生労働省, 2021)³

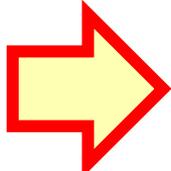
年代	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳以上
重症化率	0.5倍	0.2倍	0.3倍	1倍	4倍	10倍	25倍	47倍	71倍	78倍

□ 50歳代以上は重症化リスクが高い

■ 7月30日、東京都では5回目の緊急事態宣言

■ しかし、国民全体の自粛疲れによる危機意識の低下

□ 特に、重症化リスクの低い、比較的行動範囲の広い若者が、感染していることを自覚しないまま活動することで、感染拡大を助長してしまう懸念がある

 感染予防には、他者に感染させることに対して強い危機意識をもち、自分が感染者である可能性を常に考えて行動することが必要

先行研究

■ Health Belief Model (Rosenstock, 1974)

□ 感染予防行動意図に及ぼす要因

- リスク認知 : 自己が感染する可能性
- 重大性認知 : 感染した場合の結果の重大性
- ベネフィット認知 : 予防行動をした場合のベネフィット
- コスト認知 : 感染予防をするときにかかるコスト
- 行動の切っ掛け : 報道や医師からのアドバイス等

□ しかし、他者への感染に関する要因が測定されていない

■ Nakayachi et al (2020)

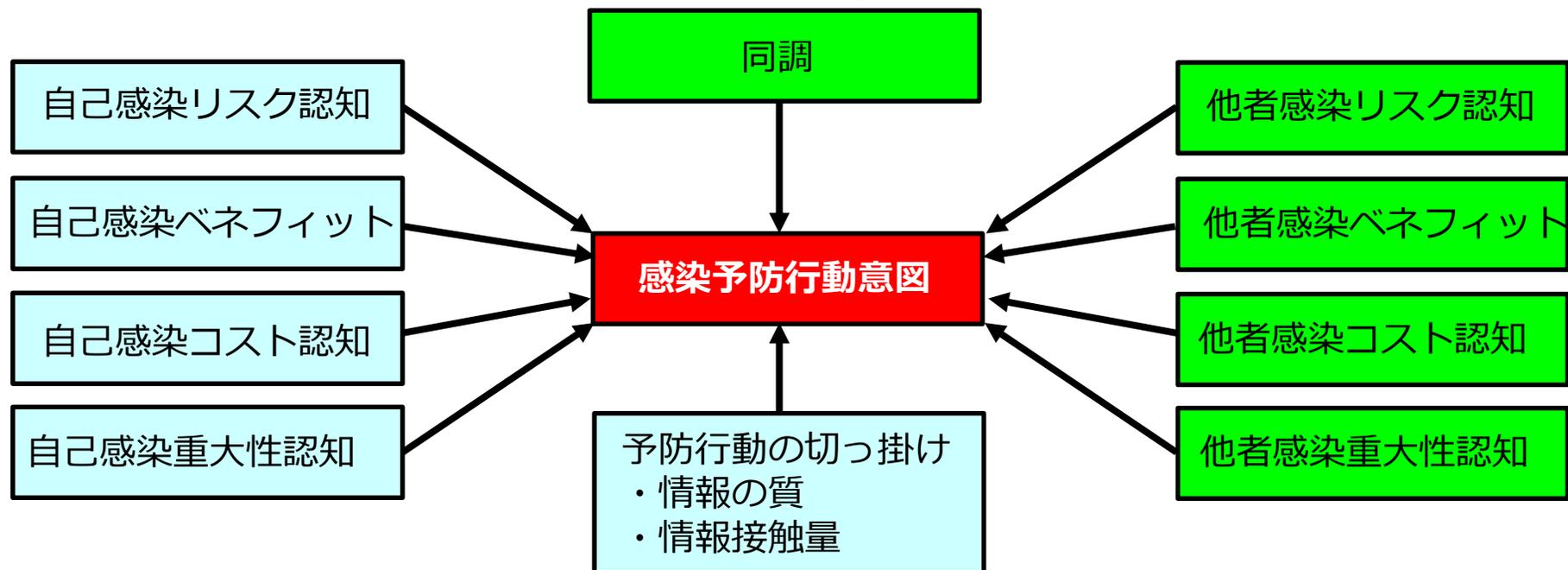
- マスク着用という感染予防行動は、感染予防というより同調意識が強いため

よって、自己のみならず、他者への感染認知、同調が若者の感染予防行動意図に及ぼす影響を検討する必要あり

目的

■ 本研究のHealth Belief Model(緑色部分がオリジナル箇所)

- 自己のみならず、他者への感染に対する認知要因を組み入れる



- 自己感染認知、他者感染認知、および同調が COVID-19感染予防行動意図に及ぼす影響を検討する

方法

- **質問項目**（5段階評価 1：あてはまらない～5：あてはまる）
 - **状況設定**：大学生が訪れる施設、活動など、複数人で3密になる可能性が高い状況から低いまでの7つを設定
 - カラオケ、屋外でのサークル・部活動、屋外テーマパーク、大型商業施設での買い物、大学講義室での授業、床屋・美容院、公園ランニング
 - なお居酒屋など飲酒を伴う会食は、感染リスクが高いことが明らかであるため、測定状況から除いた
 - **7状況それぞれにおいて測定した項目**
 - リスク認知：（例：カラオケで）自分が感染する/他者に感染させる可能性
 - ベネフィット認知：自分が感染予防行動をすると、自分が感染しないため/他者に感染させないためにどれくらい効果があるか

- コスト認知：自分が感染しないために予防行動をすることは/
他者に感染させないためにはすることはどれくらい面倒か
- 同調：感染予防行動をしている人を見ると、自分もした方がよいと思う
- 感染予防行動意図：COVID-19に対する感染予防行動をする

□ 一回のみ測定した項目

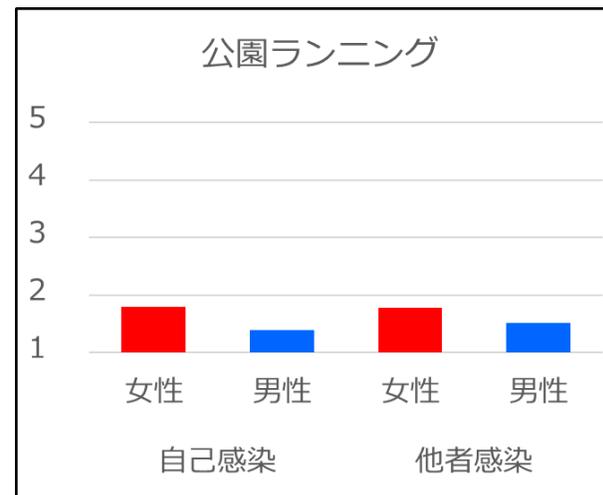
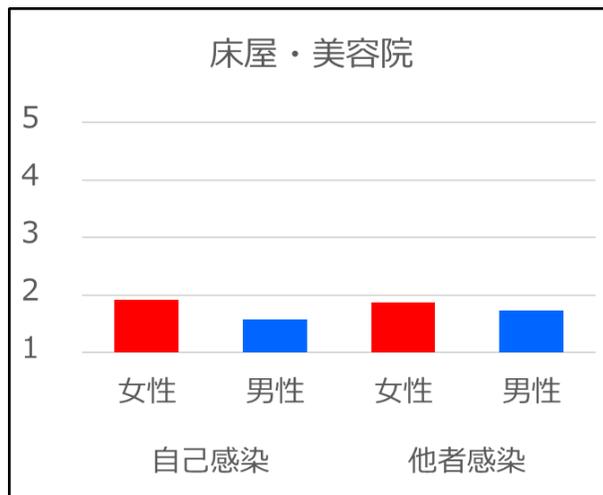
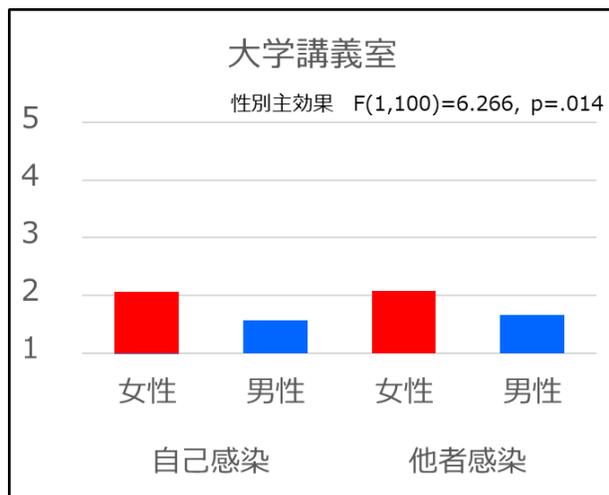
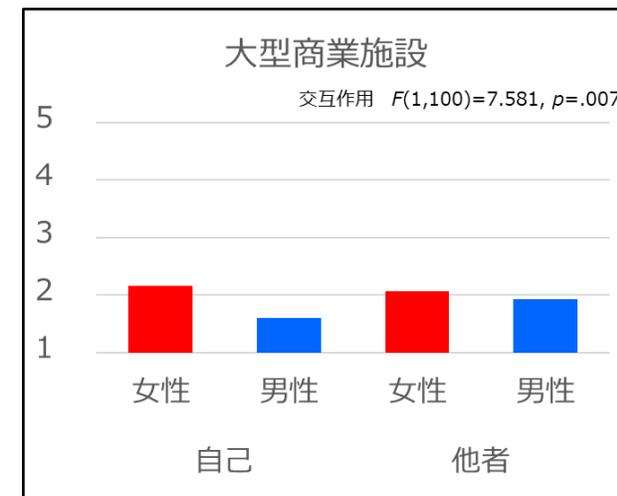
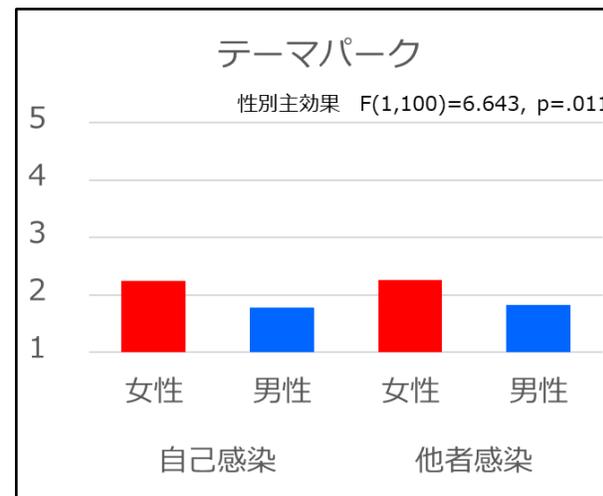
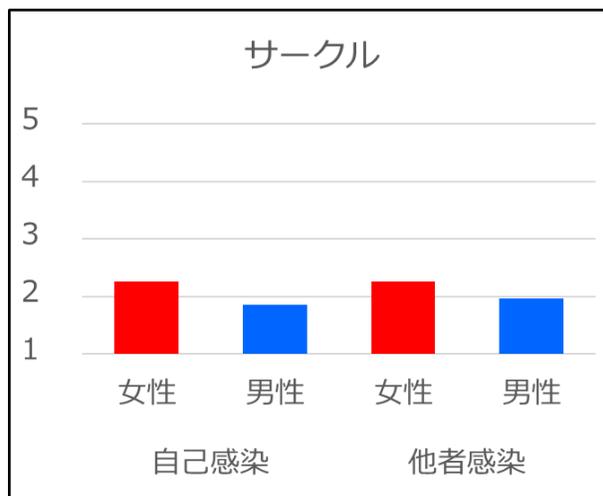
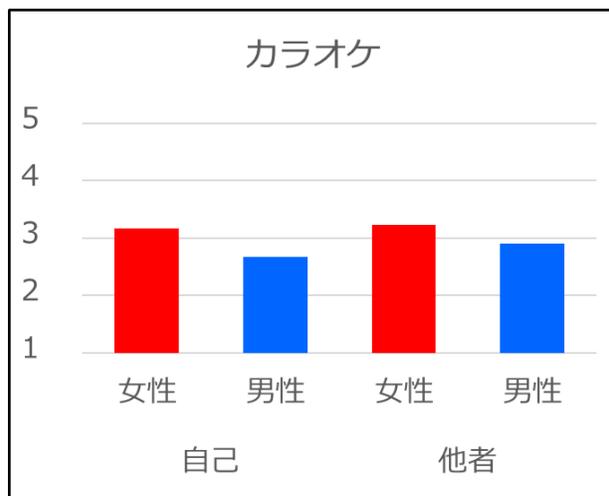
- 重大性認知：自分が感染したら自分の日常生活に/
他者に感染させたら他者の日常生活に
どれくらい影響があるか（各3項目）
- 予防行動の切っ掛け
 - 情報の質：COVID-19に関して納得するまで調べる4項目
 - 情報接触量：COVID-19に関する情報をよく見るなど4項目

□ 調査参加者

- 大学生104名（男性53名、女性49名、不明2名）
- 2021年11月にGoogle formによる調査を実施

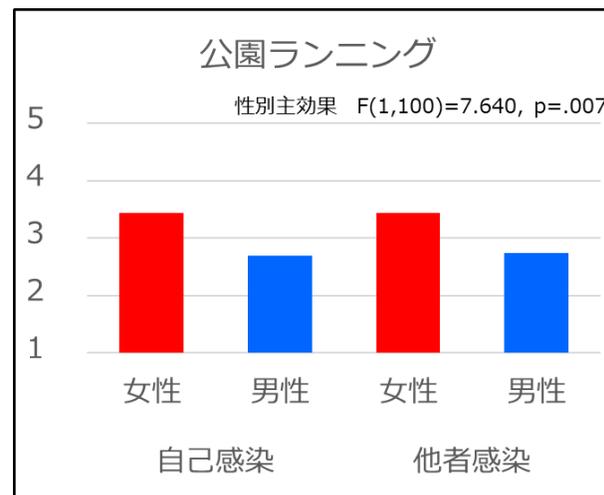
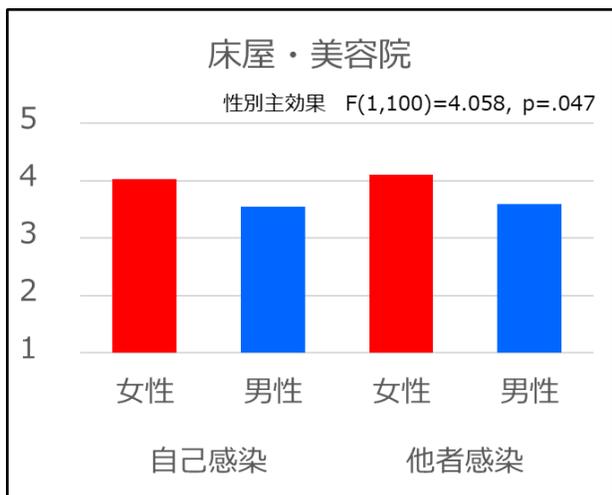
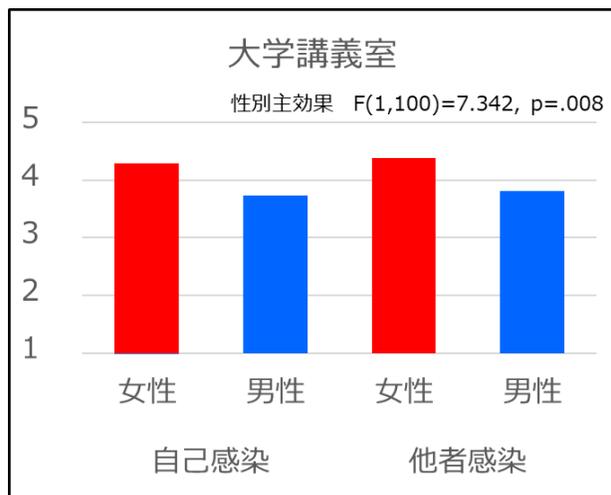
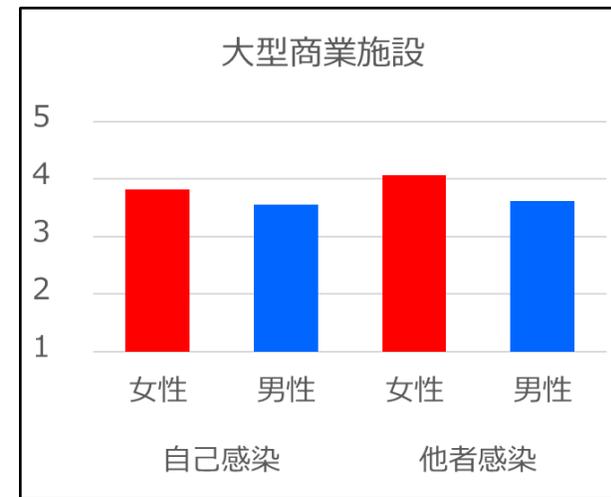
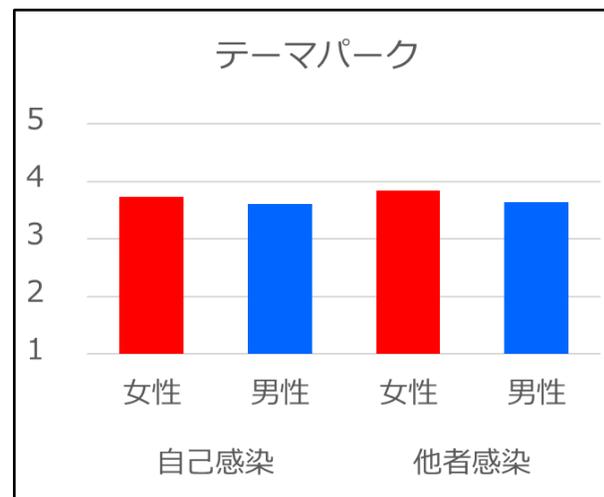
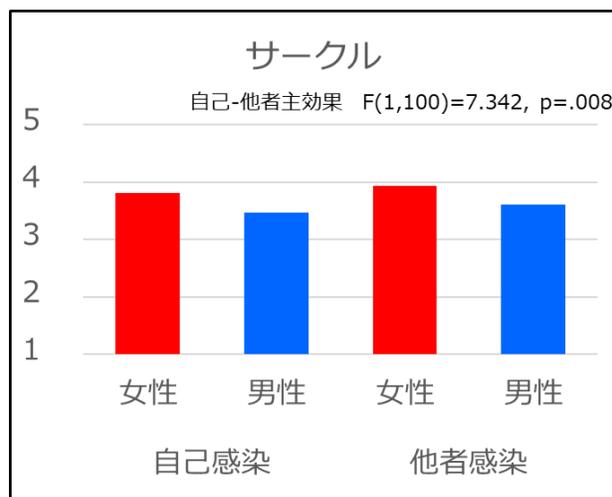
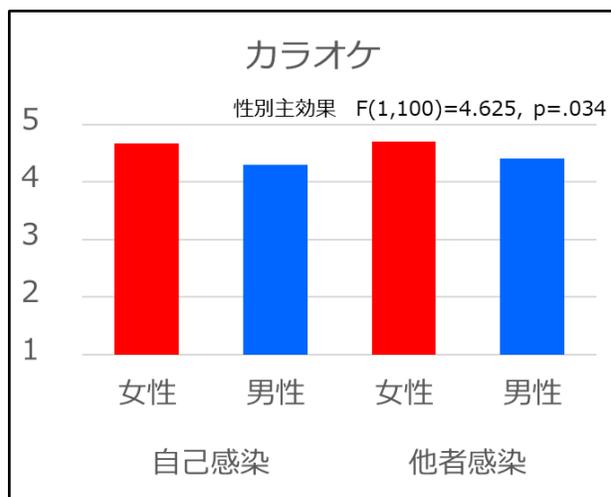
結果 1 : 7状況における分散分析の結果

■ リスク認知 : COVID-19に感染するリスク



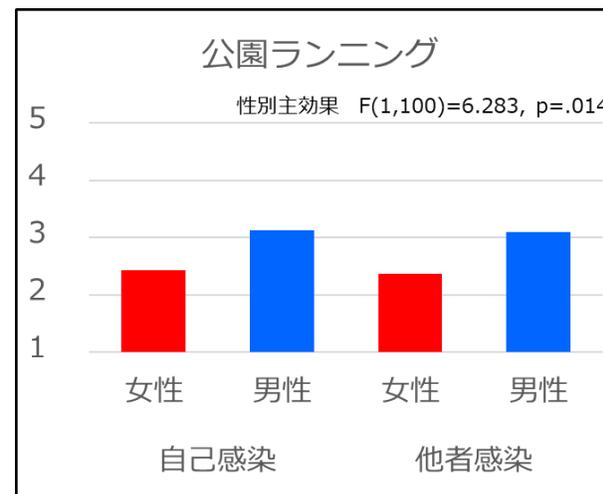
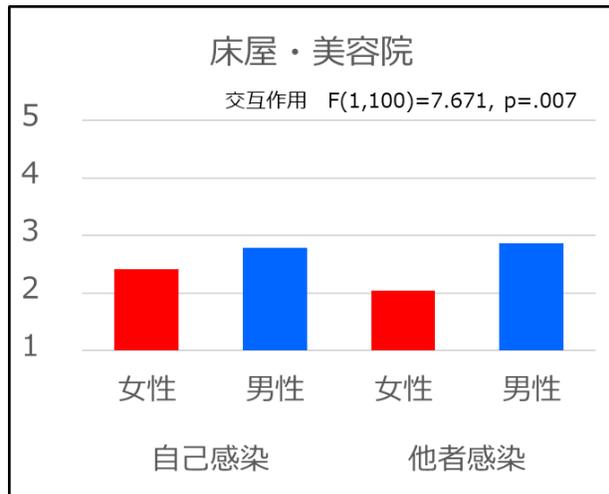
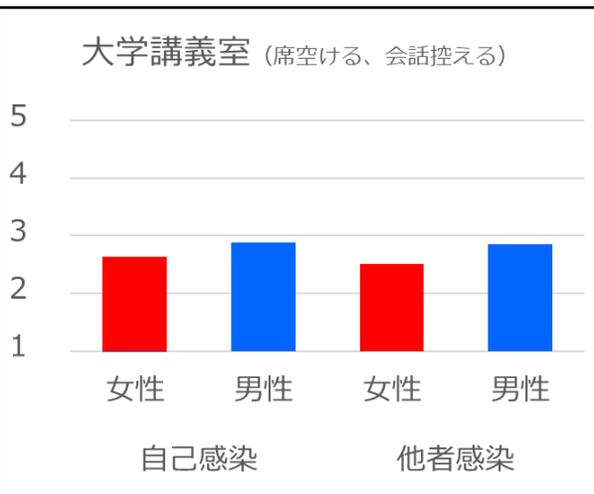
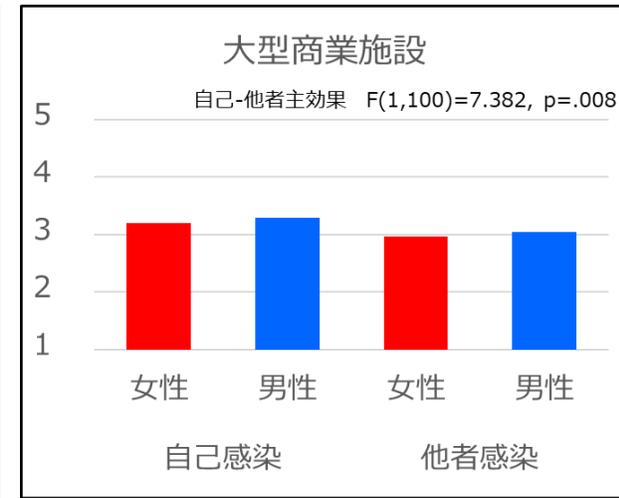
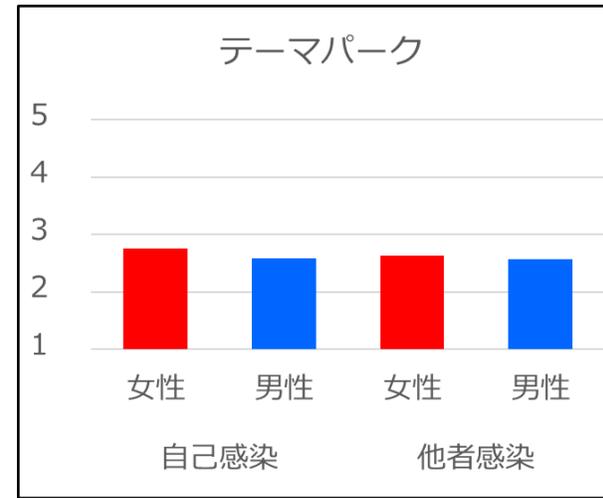
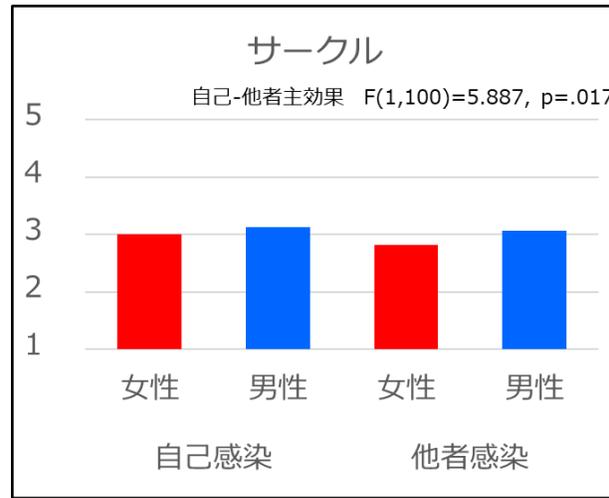
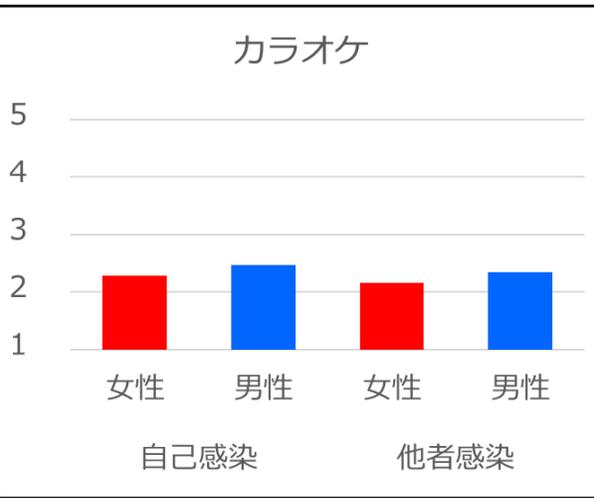
- 性差はあまりない
- カラオケ以外のリスク認知は低い

■ ベネフィット認知： 以下の行動を控えることによる感染予防効果の高さ



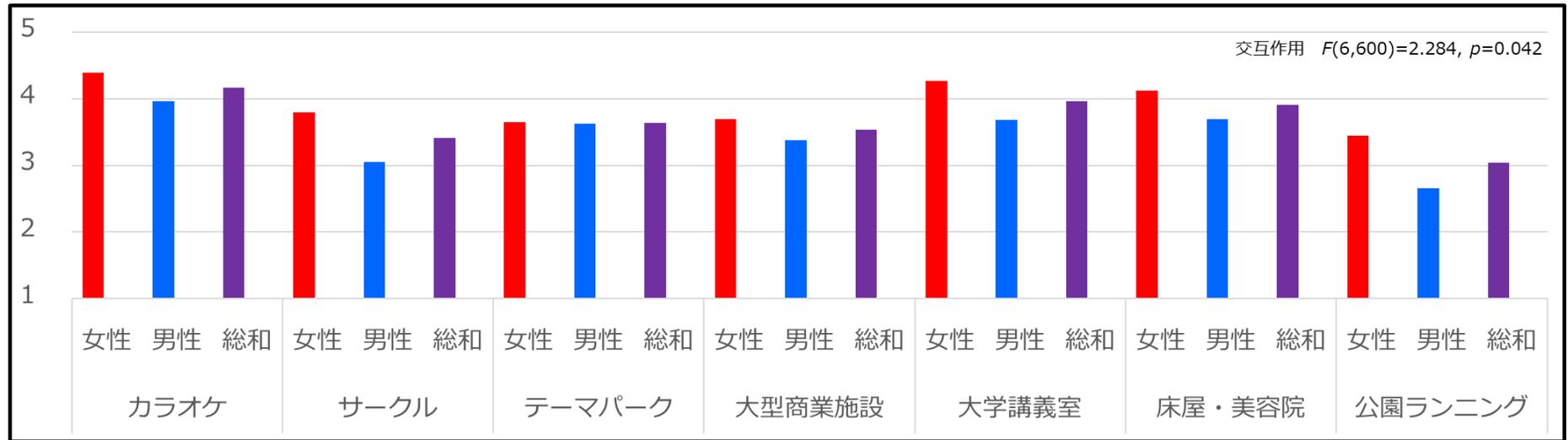
- 男性は、女性よりも、自分が行動を控えても、自己や他者への感染予防ができないと考える傾向が高い
- ランニングは予防効果が低い

■ コスト認知： 以下の行動を控えることの面倒くささ



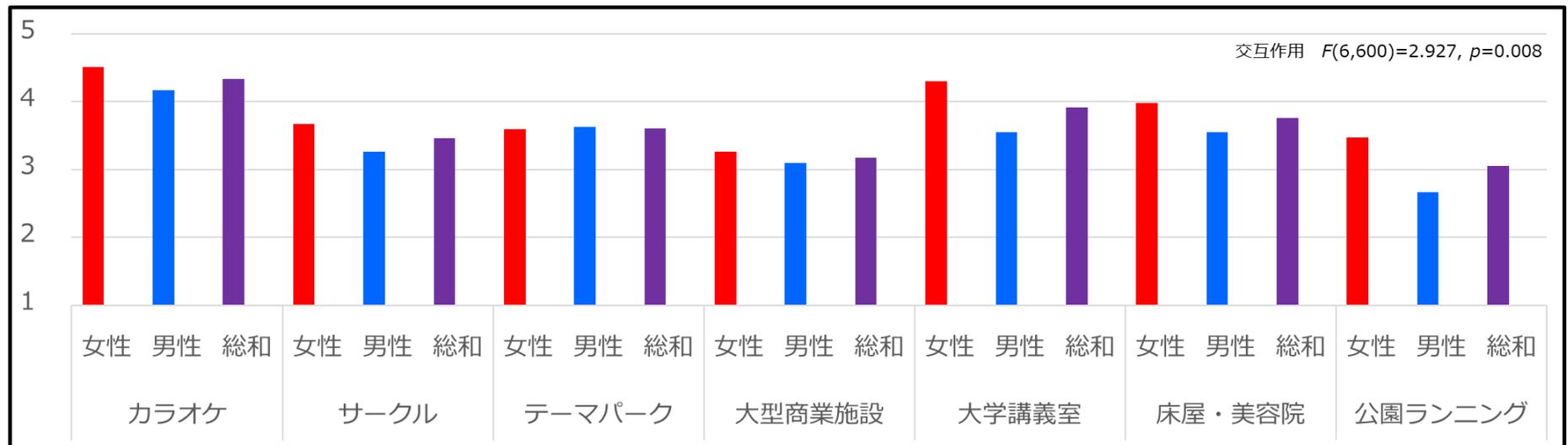
- 男性は、女性より、行動を控えることを、面倒と考える傾向が高い
- 大型商業施設やサークル活動などを控えることは面倒

■ 同調：みんなが行動を控えているのであれば、自分も控える



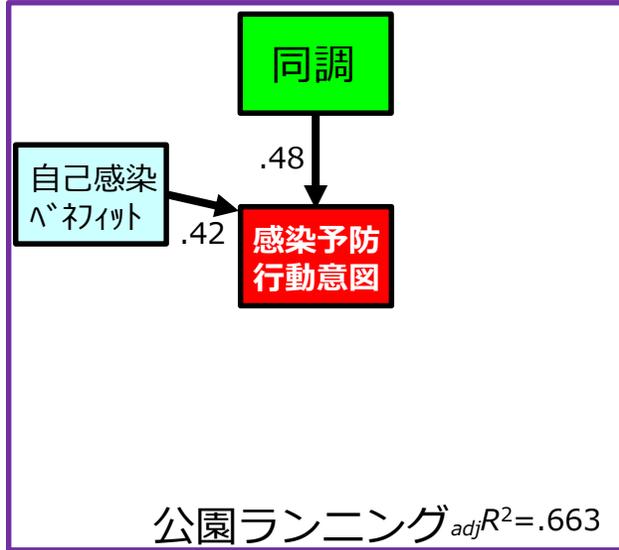
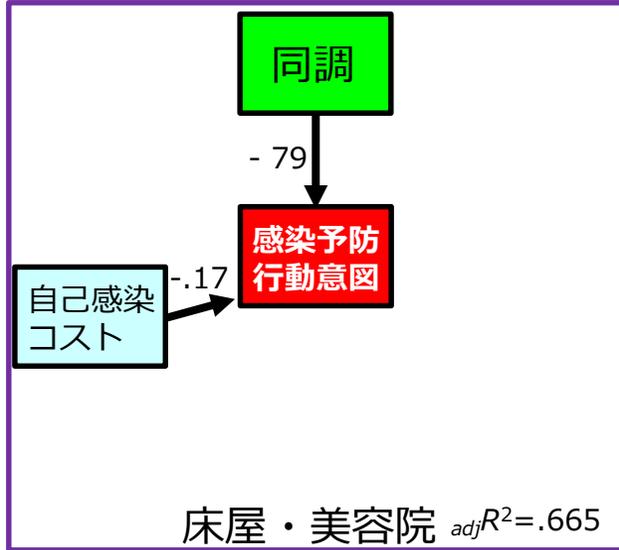
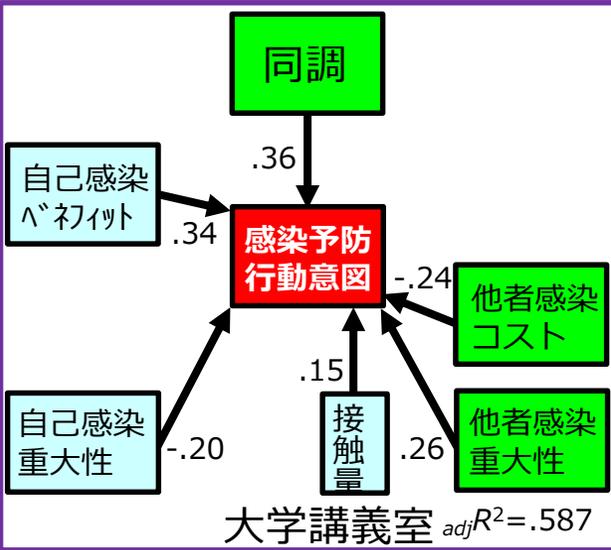
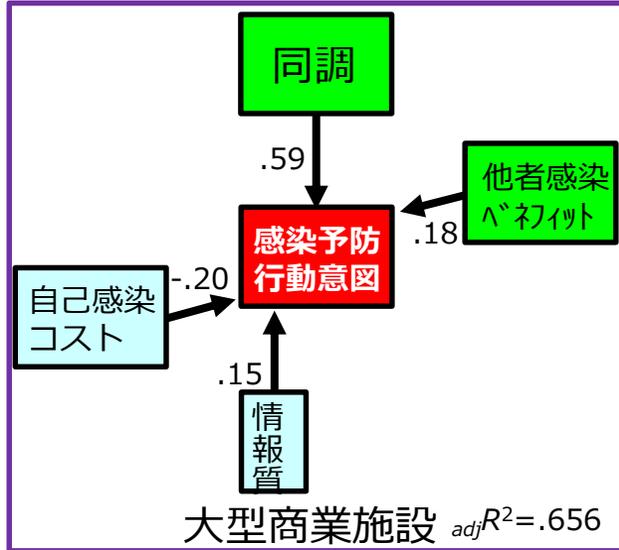
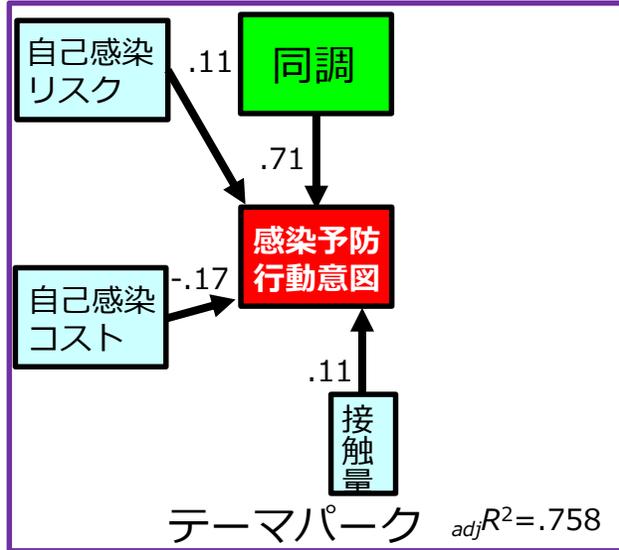
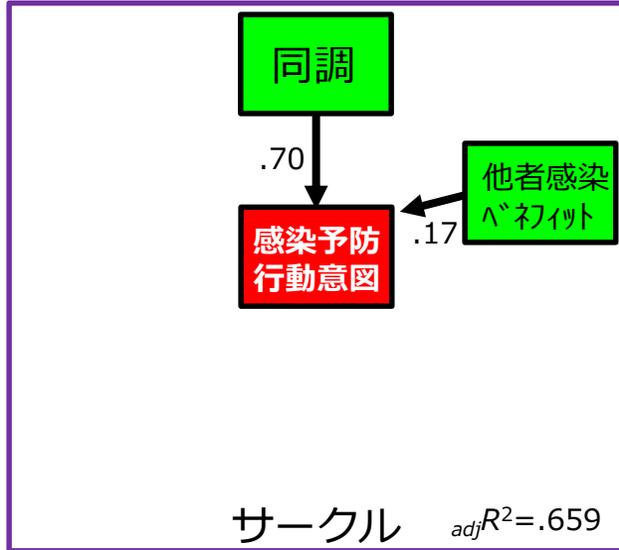
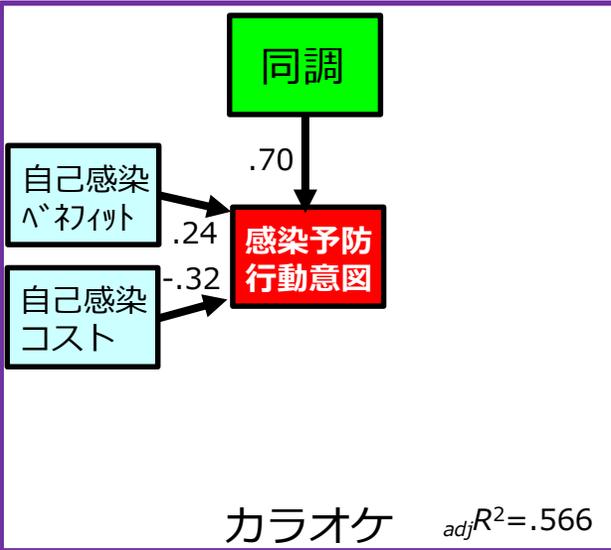
- 男性は、女性より、同調する傾向が低い
- ランニング、サークル活動、**大型商業施設**、テーマパークは同調する傾向が低い

■ 感染予防行動意図



- 男性は、女性より、予防行動意図が低い
- **大型商業施設**、ランニング、サークル活動、テーマパークは**感染予防をする意図が低い**

結果 2 : 7状況における重回帰分析の結果



- 全状況に共通して同調が感染予防行動意図を規定する
- 自己感染予防コストも重要な要因の一つ

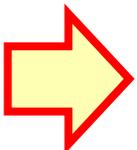
■ 各状況におけるCOVID-19に対する認知

□ 大型商業施設、サークル活動

- 控えることは面倒と考え、
しかも、感染予防行動意図も低い傾向がある

⇒ クラスター発生源になる可能性がある

- 2021年8月12日新型コロナウイルス感染症対策分科会：
百貨店地下の食料品売り場やショッピングモールなどへの
人出を「強かに抑制する」ことを提言（岐阜新聞web,2021）

 **大型商業施設、デパ地などのへ入場制限をする必要あり**

- 2021年8月17日 東京都は入場制限強化を検討

- カラオケ、大学講義室での会話、床屋・美容院
 - 感染予防行動意図は高い
 - クラスター発生源になる可能性は低くなってきているかも
- 公園ランニング
 - リスク認知、ベネフィット認知だけでなく感染予防行動意図も低い
 - 3密が弱い状況のため、クラスターは発生しないと考えているためかも
- テーマパーク（各要因の程度を7状況で比較すると、どの要因も中程度）

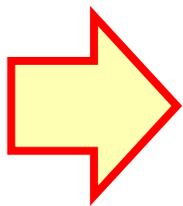
■ 性別の差異

□ 女性の特徴

- 自分が控えることは自己や他者への感染予防に効果的と考える
- 感染する可能性を高く評価する
- 他者の行動に同調する傾向が高い

□ 男性の特徴

- 自分が行動を控えることを、面倒と考える
- 感染する可能性を低く評価する
- 他者の行動に同調しない



**クラスター発生を抑制するためには、
特に男性に対して注意を喚起し、協力を求める必要あり**

■ 感染予防行動意図と関連する要因

- 同調が、全状況で感染予防行動意図を規定

⇒他の人がやっていたら、自分もやるという傾向がある

- 自己感染予防コストは、重要な要因の一つ

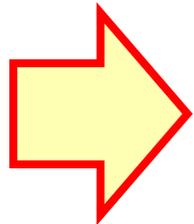
- 他者感染予防ベネフィットも、感染予防行動意図を規定

- Health Belief Modelに、他者視点要因を入れる必要あり

- 大型商業施設での買い物、サークル活動では、

「自分の行動が、他者への感染予防に効果的である」

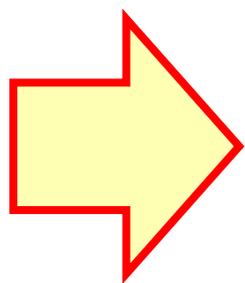
という認識をする人ほど、感染予防行動をとる傾向がある



**自己視点だけではなく、他者視点に立って、
判断・行動し、他者と協調・共感することが必要**

結論

- 大型商業施設での買い物などは
クラスターが発生する可能性がある
 - 感染症対策分科会もショッピングモール等への人出の抑制を提言
- 男性は、感染予防行動意図（やその他要因）が低い
- 同調が、最も感染予防行動意図に影響する
 - 自己視点だけではなく、他者視点に立って考えることが重要
 - 特に大型商業施設でのクラスター発生を予防するためには必要



**感染予防のためには、自分のことだけでなく、
「他者のことを考える・気遣うこと」が必要
特に、男性が感染予防行動に協力することが必要**

参考文献

- 国立感染症研究所.(2021).新型コロナウイルス感染症の直近の感染状況等（2021年8月11日現在） . <<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/10572-covid19-ab47th.html>>（2021年8月17日アクセス）
- 厚生労働省.(2020). 新型コロナウイルス感染症の“いま”についての10の知識. <<https://www.mhlw.go.jp/content/000689773.pdf>>（2021年8月17日アクセス）
- Liu, K., Chen, Y., Lin, R., & Han, K. (2020). Clinical features of COVID-19 in elderly patients: A comparison with young and middle-aged patients. *Journal of Infection*, 80(6), e14-e18.
- Nakayachi, K., Ozaki, T., Shibata, Y., & Yokoi, R. (2020). Why do Japanese people use masks against COVID-19, even though masks are unlikely to offer protection from infection?. *Frontiers in Psychology*, 11, 1918.
- NHK. (2021). 特設サイト 新型コロナウイルス. <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/data-all/#graph--infect-death__infect>
- Rosenstock, I. M. (1974). Historical origins of the health belief model. *Health education monographs*, 2(4), 328-335.
- Slovic, P. (1987). Perception of risk. *Science*, 236(4799), 280-285.